

大型クラゲ被害防止対策緊急調査

太田 洋志・寺田 雅彦

エチゼンクラゲ（*Nemopilema nomurai*）等の大型クラゲは、日本海沿岸域に大量に出現して定置網や底曳網等に入網することにより、漁具の破損や漁獲物の品質低下、操業の停止等沿岸漁業に大きな被害を与える場合がある。このため、佐賀県玄海海域および対馬東水道における大型クラゲの出現状況について調査および情報収集を実施した。なお、本調査の一部は、一般社団法人漁業情報サービスセンター（以下、JAFIC）からの委託により実施した。

方 法

大型クラゲの出現状況等については、海上調査として船上からの目視調査、陸上調査として漁業者からの情報収集を行った。

1. 海上調査および陸上調査

海上調査は、令和6年7月から令和6年11月にかけて、壱岐水道で7回、対馬東水道で2回実施した。調査は、調査船から目視で行った。

陸上調査は、令和6年7月から11月にかけて関係漁協を通じて漁業者から大型クラゲの目撃・入網状況等を毎週収集した。関係漁協と対象漁業種類は、屋形石漁協において定置網、佐賀玄海漁協の唐津市統括支所において小型底曳網およびごち網、同高島支所において定置網および小型底曳網、同神集島支所において定置網および小型底曳網、同鎮西町統括支所において定置網、同加唐島支所において一本釣、同馬渡島支所において刺網である。これらの調査結果は、JAFICへ報告した。

2. 情報収集および漁協等への情報提供

漁協等へ提供する情報は、JAFICや国立研究開発法人水産研究・教育機構等のホームページから収集した。

結 果

1. 海上調査および陸上調査

海上調査および陸上調査のいずれにおいても大型クラゲは確認されず、漁業被害の発生はなかった。

2. 情報収集および漁協等への情報提供

他県の調査で6月下旬に対馬周辺海域で大型クラゲの大量出現が確認された際には、漁協等の関係機関に対してその旨周知した。